

黄色ブドウ球菌対策



～特徴～

黄色ブドウ球菌が起す食中毒はこれから夏にかけて発生件数が増加していきます。

他の食中毒として代表される原因のサルモネラや病原大腸菌などの場合は生きた細菌が腸内に感染することによって起きる『感染型食中毒』にあてはまります。

しかしこの黄色ブドウ球菌の場合は、加熱し黄色ブドウ球菌を死滅させたとしても、エンテロトキシンという毒素を発生させているため、『毒素型食中毒』と言う別タイプの食中毒を発生させます。

です。黄色ブドウ球菌の食中毒は感染症ではなく、毒キノコを食べてしまった場合に近いと言えます。



～感染経路～

この黄色ブドウ球菌は人や動物の各部位など、身近に高確率で定着しており、付着した手などから食品が汚染される機会が多い為、食中毒が発生します。

この菌は上記にあるとおり、加熱して死滅させても毒素が残る上、酸素のない状態でも増殖可能で、多少塩分があっても毒素をつくる為、汚染を受ければあらゆる食品が原因食となる可能性を持っています。

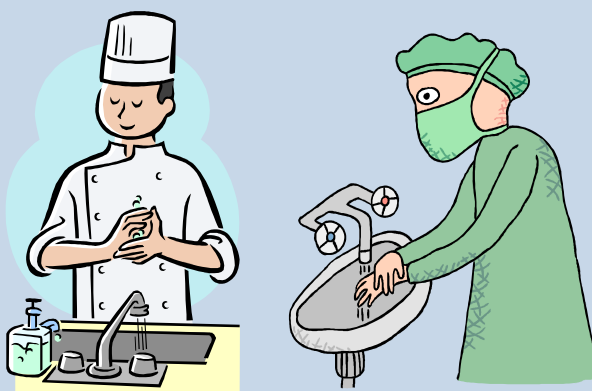
日本での主な原因食品は、おにぎりや折詰弁当、和菓子やシュークリームです。

～対策～

予防対策として、いくつかポイントを挙げさせていただきます。

- ・正しい手洗い（手指の洗浄消毒）を十分に行う
- ・食品は10℃以下で保存、菌が増える速度を遅らせる
- ・調理にあたっては、帽子やマスクを必ず着用する
- ・手指に切り傷・擦り傷・化膿などがある時は、調理をしない
- ・盛り付け時などでは、手袋を着用する
- ・調理器具は熱湯殺菌と消毒液の消毒をする習慣をつける
- ・大量の食品を前日に調理したり、長時間保管することを避ける

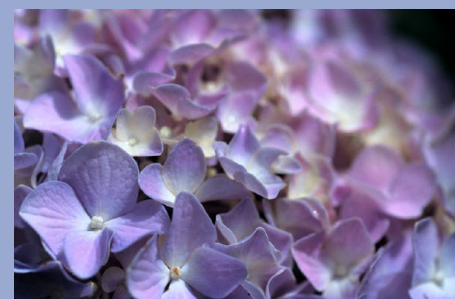
これらの対策で、安全性が高まります。



FCC News

2009年6月号

NO. 0064



- 目次 -

エコ委員会からお知らせ

施工員コーナー

黄色ブドウ球菌対策

環境コラム

季節のムシ暦¹⁹

地球の環境衛生を創造する
株式会社 FCC
fine, comfortable & creative

株式会社 FCC

住所：神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

FCCエコ委員会からのお知らせ



弊社では、ペットボトルのキャップを集めて世界の子供たちにポリオワクチンを届けるための運動を行っております。

ポリオワクチンは一人分20円です。エコキャップ800個で1人の子供の命が救えます。

皆様のご協力により、今年1月から4月までで35,000個のキャップが集まりました。

43.7人分のワクチンと交換できます。誠にありがとうございます。



何気なく廃棄していた小さな資源が大きな優しさになります。

今年度は100人分のワクチンを目標としております。引き続き、エコキャップの収集を進めてまいりますので、ご協力いただける方はご一報くださいませ。

施工にうかがった際に、お引取りさせていただきます。

ご連絡をお待ちしております。

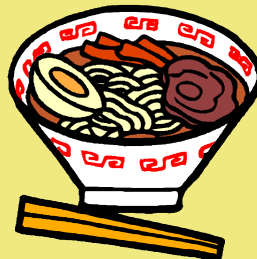


～第1回～施工員コーナー

施工現場での失敗です。

不注意で厨房の什器を移動した際にラーメンのタレ(スープで割る原液です)を頭からかぶってしまいました。

施工用のTシャツとズボンがビショビショになってしまいました。



タレは半分くらいこぼれてしまいましたが、お店の方は大丈夫だよ、とおっしゃって下さいました。ありがとうございます。ご迷惑おかけしました。

その後、家に帰り洗濯しましたが他の洗濯物にもタレの匂いが移ってしまいました。

もう一度、今度は洗剤を3倍にして洗濯しました。他の洗濯物の匂いは取れましたがタレをかぶったTシャツは、まだニオイます。

そこでFCCの消臭剤のF118をスプレーして干しておきました。



一日干したのちニオイをかいでみると見事に消臭出来ていました。

さすがF118! 効果絶大です。

消臭剤F118とは?

森の自然力で室内の悪臭・カビ菌を協力除去!

FCCが取り扱う消臭剤は118種類の天然成分から抽出した純植物性液で天然マイナスイオンをそのままの形で部屋に放出し、悪臭除去・除菌します。

化学物質を使わず、人や動物に安全無害ですので、体臭・タバコ臭がこもるホテルや、動物臭が気になるペットショップ、加齢臭が問題になる病院・介護施設、薬品臭が停滞する美容院やエステサロンなどでご利用いただける商品です。



海や河川を汚すことなく地球環境への配慮をした自然と調和ができる製

【灯火に飛来する毒虫、ハネカクシ】

桜が終り、新緑が青葉に変わるともう夏である。それと共に、“虫模様”ががらりと変わってくる。昔の夏は“虫捕り”に明け暮れる中、時にはハチに刺され、虫に咬まれはしたが、楽しい思い出に満ちたものであった。なかでも、印象に残っているのは、方言で「ハコキムシ」（ハンミョウ）と言う虫を棒で押えると、尻から「プスツ」と言う放音と共に、白い煙のような噴出物を出すのが、面白くて何度も繰り返して、遊んだ事である。

しかし、油断するとこれが、皮膚につき「水ぶくれ」が出来て、痛い思いをした。これが防衛物質で「カンタリジン」であると知ったのは、はるか後耳である。大人になってからの虫との付き合いは、余り風情が無く、季節ごとに虫の事故ばかりが気になり出した。虫問題は、環境の変代や人の生活スタイルが変わりゆく中で、様子が違って来た。夏となれば、忘れ難いのが、灯火に飛来し、人に被害をもたらす虫の事である。

そんな虫の代表的なのが、「アオバアリガタハネカクシ」である。戦後も昭和50年頃から昭和60年頃まで、日本各地で大発生を繰り返して、被害が多発した。この虫の素性は、「有毒甲虫類」と称するハネカクシ科、カミキリモドキ科、ツチハシミョウ科などの仲間、ハネカクシ科に属する。

これらの虫は、有毒な体液を持っていて、人がこれに触れると皮膚炎を起す。また、眼に入ると酷い炎症を起す。この代表的な事例は、昭和36年から昭和39年にかけて茨城県下で、電話局などの職員に大きな被害をもたらせた事でよく知られている。



食品工場から混入異物のムシとして相談の多いハネカクシ。

それは、日暮から夜の10時頃まで、灯火に飛来した虫が、下に落ちて人に付着したためである。また、夜間に自転車やオートバイなどで走行中、灯火に飛来したものが、眼に入るなどして、眼に炎症を起す事例も多発している。成虫は、体長が70mm前後で、翅が身体の半分を覆う程度の長さである。

発生源：この虫は、水田、畑、池沼の周辺、川岸の湿った場所の草地に棲息する。幼虫は、餌として小昆虫、野菜、雑草をとる雑食性であるが、成虫は肉食性で昆虫、ダニ、線虫などをとる。

発生時期：成虫が姿を見せるのは、5月から10月で、6月から8月にかけて灯火に飛来する。この時期に、被害が最も多発する。飛来した成虫が、人の肌にとまった時に、これを払い落としたりする際に、体液(毒物質)が付着する。

この有毒物質は、ペテリンと言う物質で、皮膚について2時間前後で発症する。眼に入れば、急性結膜炎などを発症する。なお、この毒物質は、卵から成虫に至る前齢期にわたって存在する。もし、この虫による皮膚炎が生じた場合、副腎皮質ホルモンを含むコチゾン系の軟膏を用いるとよい。

この虫の発育期間は、約30日から50日である。関東周辺では、年に1回から3回の発生を見る。ハネカクシの今日の事情：有毒甲虫として、世間を騒がせたハネカクシが、昭和60年頃から徐々に話題にならなくなった。

それと共に、かつての田園風景は、林立するマンション群や住宅地に姿を変えてしまった。また、川岸は護岸工事で湿地をなくしてしまった。同時に灯火環境も全く変貌を遂げ、アオバアリガタハネカクシの活動の場をなくした。

しかし、ハネカクシの成虫は、排泄物の中や腐植有機物質や糞や塵芥などを好んで活躍し、根強く定着した。こんな仲間も、300種を越し、工場・施設の“水周り”を発生源として、今や混入異物の虫となった。

今や、食品取扱関連施設の問題虫なのである。環境の変化は、新たな問題虫を創成してしまった格好の材料である。

環境コラム

今もなお進む森林破壊

森林破壊とは、様々な原因により森林が失われていく事をいいます。今この瞬間も、世界中で森林破壊が進んでいます。現在、世界の陸地で森林の占める割合は4分の1です。ある調査によると、その森林があと100年ほどで無くなってしまおうといのです。

この森林には、最近の温暖化問題で採り上げられている、二酸化炭素を吸収し酸素を生み出す事。私達人間に必要な『水』を蓄え、『食料』を生み出す事。木材という『資源』を供給する事。森林は、地球上において様々な大きな役割を果しているのです。

文明の発達と共に、人の生活に密接した森林の伐採は加速の途を辿っています。この森林伐採、皆様は他人事のように考えていませんか？

森林破壊は、森林伐採を始めとする人間の手によるものが主な原因に挙げられます。資源として木材の大量消費による伐採。レジャー施設の開発。焼畑により原生林が減少。放牧地や農地の開拓：等々。

ここで1つ考えてみて下さい。

これは、開拓した人、伐採した人だけに問題があるのでしょうか？むしろ私は、需要を感じている私達側に問題がある気がします。勿論、需要を0(ゼロ)にしろという訳ではありません。ただ、紙の無駄遣いなど森林資源を過剰に使用しすぎているのでしょうか。

私達の住む地球は資源に満ち溢れています。しかし、人間はその資源を無為に消費し続けてきた過去があります。今の豊かさは、限りある資源を犠牲にしての豊かさと言えるでしょう。それは、『3Rの最終処理施設問題などを見ても一目瞭然ではないでしょうか。』

そうした流れにストップをかけるべく起こった運動が『4R運動』。4R運動とは、既におなじみとなりました3R(『減らす』を意味するReduce【リデュース】、『再利用』を意味するReuse【リユース】、『再資源化』を意味するRecycle【リサイクル】)に『断る』を意味するRefuse【リフューズ】を加えた考えです。

これは、特にケニアの環境副大臣のワンガリ氏が推進しており、その通称は皆様も一度は耳にしたことがあるかと思われる『もったいない運動』と呼ばれています。

生活が豊かになり多くの日本人の忘れてしまった、この『もったいない』という言葉。この言葉にこそ、森林破壊を食い止める力が隠されているのではないのでしょうか？

